

Ⅳ. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 社会連携

A-1 大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

《A-1の視点》

A-1-① 社会貢献を目的とする学生活動

A-1-② 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育等、大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

(1) A-1の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

(2) A-1の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

A-1-① 社会貢献を目的とする学生活動

本学が所在する大阪府東大阪市、並びに平成 27(2015)年 3 月まで関屋キャンパスが所在していた奈良県香芝市において、自治体関係者等との協議の場を設け、自治体および地域住民からの社会的ニーズ・要請に応えるべく、継続的かつ発展的な連携、協働を推進してきた。特に教育的観点から、学生が主体となり地域課題に取り組むことができる活動に焦点を絞り、共同事業として計画・実施してきた。

これまで実施してきた事業としては次のようなものがある。

1) 東大阪市との連携事業 …「^{ケイエスケイテン}KSK10」プロジェクト

小阪駅前地区が他地方都市のアーケード街と同様にシャッター通りと呼ばれるように著しく寂れたものとなっていることより、これらを改善すべく、小阪商店街連合会の依頼と、学生の自主的な取り組みである「いきいきキャンパスライフプロジェクト」事業をゼミでの教育と融合し、「KSK10」プロジェクト【資料 A-1-1】として、地域の活性化活動を実施しているものである。「KSK10」プロジェクトには、平成 25(2013)年度からライフプランニング学科の学生 21 人が参加している。

2) 香芝市との連携事業 …「SHOIN 子育てカレッジ」「グリムプロジェクト」「ヤングアメリカン」「ヤングジャパニーズ」

子育て世代が多く存在する一方で、古くから在住する高齢者世代も少なくないという地域の特徴と、将来的にも子どもに関わる職業を選択する学生が大半である児童学部、また、心理学的な観点から子どもにアプローチをすることに興味を持っている学生が在籍する心理学部が設置されている本学の特色がマッチしていることから継続的に実施してきたものである。これらは、「SHOIN 子育てカレッジ～絵本で広がる子育ての輪～」【資料 A-1-2】

として展開し、子育て支援の一つである「グリムプロジェクト」【資料 A-1-3】では平成 22(2010)年度から延べ 67 人の学生が参加している。

さらには、児童・生徒に自分の可能性を気づかせる取り組み「ヤングアメリカンズ」【資料 A-1-4】に平成 22(2010)年度から延べ 127 人の学生が参加し、それを拡大した「ヤングジャパニーズ」【資料 A-1-5】では学生が自主的に活動を継続しており、平成 25(2013)年度から延べ 27 人の学生が参加している。

また、平成 26 年度より香芝市の依頼により、20 人の学生が地元の 3 企業と商品開発等で連携している。【資料 A-1-6】【資料 A-1-7】

3) その他

大阪の堀江地区では、来街者調査や市場動向分析等の実施、街頭イベントや各種講演含む企画立案および実施運営、商品開発等をとおして、『女性に魅力的な街づくり＝地域活性化』の実現をめざした事業を実施した。

表 A-1-1 に示す通り、これらを含めた学生社会貢献活動は、平成 22(2010)年度から延べ 381 人の学生が参加している。また、表 A-1-2 に示す通り、学校教育ボランティアについては、平成 22(2010)年度から延べ 311 人の学生が参加している【資料 A-1-8】。

表 A-1-1

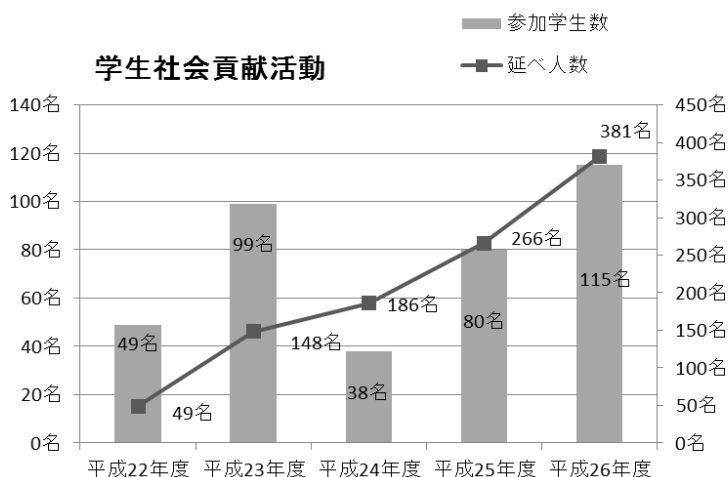
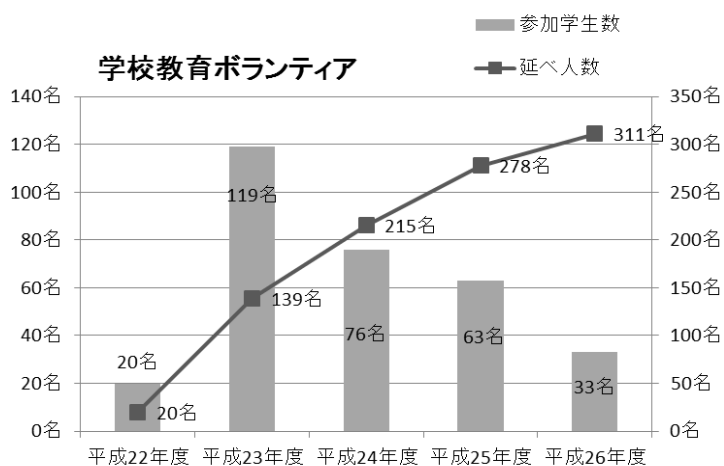


表 A-1-2



A-1-② 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育等、大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

1) 各種連携協定について

自治体等との連携については、平成 8 (1996)年度に東大阪市と市内・周辺にある大学との間で設置された大学連絡協議会【資料 A-1-9】に参画し、平成 20(2008)年度には東大阪市教育委員会と連携協力協定【資料 A-1-10】を締結した。その間、平成 19(2007)年度に香芝市、平成 25(2013)年度には門真市との包括連携協定【資料 A-1-11】【資料 A-1-12】を締結している。

その他の連携については、平成 23(2011)年 9 月に東大阪市立総合病院との包括連携協定【資料 A-1-13】を締結し、医療・臨床栄養の分野における知的・人的資源の交流・連携を行っている。また、奈良県大学連合会及び奈良県こども・子育て応援県民会議、奈良県健康福祉部主管の地域の子育て支援大学ネットワーク会議等との連携活動により、地域的課題に係わる研究及び支援活動を積極的に推進している。

平成 18(2006)年度から地域との連携を進めた結果、現在、延べ 14 の自治体、教育委員会、病院等と協定を結んでいる。【資料 A-1-14】また、地域の要請に応え各種委員や、講座・研修に講師として、平成 22(2010)年度から延べ 75 人の教員を派遣している。連携協定の状況を表 A-1-3 に示す【資料 A-1-15】。

表 A-1-3

自治体及び教育委員会等との連携協定状況

種類	名称	締結時期
自治体	奈良県香芝市	平成 19 年(2007)4 月
	大阪府大阪市	平成 19 年(2007)9 月
	兵庫県伊丹市	平成 21 年(2009)5 月
	大阪府門真市	平成 26 年(2014)2 月
教育委員会	大阪府教育委員会	平成 19 年(2007)3 月
	奈良県教育委員会	平成 20 年(2008)3 月
	大阪市教育委員会	平成 19 年(2007)6 月
	東大阪市教育委員会	平成 20 年(2008)6 月
その他	大学コンソーシアム大阪	平成 18 年(2006)2 月
	大学コンソーシアム香芝	平成 22 年(2010)4 月
	堀江立花通ユニオン	平成 22 年(2010)5 月
	東大阪観光協会	平成 21 年(2009)6 月
	近森病院	平成 23 年(2011)4 月
	東大阪市立総合病院	平成 23 年(2011)9 月

2) 教育研究活動の地域への還元について

大学の教育研究活動を地域に還元すべく、広いジャンルにわたる公開講座、公開講演会等を開催している【資料 A-1-16】。公開講座等は平成 22(2010)年度から延べ 203 講座を開催している。

特筆すべきこととして、本学の卒業生であり芥川賞作家である田辺聖子氏の偉業を称えるべく「田辺聖子文学館」を設置し、田辺聖子氏の業績を幅広く地域に紹介していることが挙げられる。当館への来館者は、平成 22(2010)年度から延べ 36,121 人を数える。

また、田辺聖子文学館では、「田辺聖子文学館ジュニア文学賞」を創設し、全国の中学生・高校生の読書・文化活動の発展・向上に寄与している。小説、エッセイ等の各部門に平成 22(2010)年度から延べ 63,627 人の中高生、2,044 校の中学、高校の応募があった【資料

A-1-17】。

さらに、地域のライブラリとして図書館所蔵の貴重書を読む講座を開催し、平成 25(2013)年度から延べ 199 人の参加があった。【資料 A-1-18】これらの活動により、大学の教育研究の成果が地域に広く還元されるよう努めている。

3) くすのき地域協創センターについて

地域連携を通じた社会貢献活動を強化すべく、大学の平成 26(2014)年度からの取り組みをまとめた第Ⅱ期中長期計画の策定において、本学は地域連携を主要な使命の一つと位置づけ、地域が抱える課題に対して大学が積極的に関与していくことを明確に示している。本方針にもとづき、このような地域連携への取り組みを集約するために「くすのき地域協創センター」【資料 A-1-19】【資料 A-1-20】を平成 26(2014)年 6 月に設置し、教職員や学生の地域志向の強化を図っている。

「くすのき地域協創センター」の事業は、くすのき地域協育プログラムを通じた学生の育成を柱とする教育事業、くすのき研究助成プログラムによる地域課題の解決をテーマとした研究の推進を柱とする研究事業、くすのき地域協創プロジェクトによる地域連携事業から構成されており、平成 27(2015)年度より本格稼働した。

(3)A-1 の改善・向上方策(将来計画)

平成 21(2009)年、外部からの認証評価を受けたことにより、本学建学の精神の下、これまで取り組んできた社会連携活動を継続すべきことを確認できた。今後はキャンパス統合の利点を活かし、香芝市で展開した子育て支援等のプロジェクトを東大阪市や他の地区へ展開するとともに、「くすのき地域協創センター」において、学生の主体的な地域貢献の学びを支援し、地域貢献のための研究を実施し、公開講座、くすのきチャレンジプロジェクトや学生教育ボランティア等地域の要請に応えることにより、大学の持つ資源を社会に還元し、地域社会の要請に応える形で連携・協力を推進していく。

本学の特質を生かした教育研究活動により、人的資源の社会への貢献を含めて、社会からの要請に応え、調査・研究及び学生の実践活動等を通して社会との連携及び協力を推進していくことができる。

【基準 A の自己評価】

本学は大正 7(1918)年に設立以来、内容の充実した質の高い女子教育と地域に貢献する女性の育成に一貫して取り組み、平成 29(2017)年には創立 100 年を迎え、新たな 100 年への歩みを始める。本学は女子教育理念の再構築とともに、教育研究活動を通じてのさらなる地域貢献が重要であると捉え、「職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる」人材の育成を掲げ、地域社会の中で活躍できる女性の育成を本学教育の大きな柱として挙げている。

これまでも、平成 8(1996)年度から東大阪市と市内・周辺にある大学との間で設置された大学連絡協議会に参画し、大学連絡協議会を通じて連携・協力関係を地道に構築してきた。さらには、東大阪市、東大阪市教育委員会等の行政や小阪商店会連合会、NPO 等と、

まちづくりのための様々な取り組み、各種講座や研修会の講師、ボランティア等で手を携えてきた。

新たな100年に向かうにあたり、さらなる地域連携強化のため、平成26(2014)年6月に「くすのき地域協創センター」を設立した。また、10月には文部科学省の平成26(2014)年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業のタイプ2「地域発展」にも採択された。地域においては、高齢化や少子化にともない、子ども・子育て支援や食育の推進、学力向上・学校支援の推進、教職員研修の充実等が課題としてあげられている。これらについて、子育て支援では児童学部が、食育や健康管理では健康栄養学部が課題解決に貢献できる。さらに、学芸学部の各学科が商店街の活性化や歴史を活かしたまちづくりといった形で、さまざまな地域貢献が可能である。

「くすのき地域協創センター」の本格稼働により、教育・研究の地域連携だけでなく、学生にとっては学内における座学以外のボランティア活動等自主的な活動を積極的に行える環境が整い、将来の進路選択に有効に働くと考える。

以上のことより、基準項目を満たしていると判断している。

※エビデンス集・資料編

- 【資料 A-1-1】 KSK10 プロジェクト(子どもの集まる商店街)
- 【資料 A-1-2】 SHOIN 子育てカレッジ～絵本で広がる子育ての輪～
平成27(2015)年度チラシ
- 【資料 A-1-3】 「絵本」を通じた「地域の子育てサポート」プロジェクト
(子育て支援事業)平成27(2015)年度 チラシ
- 【資料 A-1-4】 YOUNG AMERICANS JAPAN TOUR 2014 チラシ
- 【資料 A-1-5】 YOUNG JAPANESE 2014 from SHOIN チラシ
- 【資料 A-1-6】 「赤ちゃん学校」開講(広報かしばお知らせ版)
- 【資料 A-1-7】 学生課外活動一覧
- 【資料 A-1-8】 学生ボランティア活動一覧
- 【資料 A-1-9】 東大阪市大学連絡協議会規約等
- 【資料 A-1-10】 大阪樟蔭女子大学と東大阪市教育委員会との連携協力に関する協定書
学生による学校教育活動への支援及び実習に関する協定書
- 【資料 A-1-11】 香芝市と大阪樟蔭女子大学との連携協力に関する協定書
- 【資料 A-1-12】 門真市と大阪樟蔭女子大学との連携に関する協定書
- 【資料 A-1-13】 東大阪市立総合病院と大阪樟蔭女子大学との包括連携に関する協定書
- 【資料 A-1-14】 自治体及び教育委員会等との連携協定状況一覧
- 【資料 A-1-15】 東大阪市及び門真市協力状況一覧
- 【資料 A-1-16】 公開講座一覧
- 【資料 A-1-17】 田辺聖子文学館
- 【資料 A-1-18】 図書館公開講座報告書(平成25(2013)年度及び平成26(2014)年度)
- 【資料 A-1-19】 大阪樟蔭女子大学くすのき地域協創センター規程
- 【資料 A-1-20】 くすのき地域協創センターの概要